「森銑三刈谷の会」だより 38(2025/1/18)

発行　2025/1/18（月刊・メールでの投稿歓迎）　バックナンバー 刈谷市中央図書館＞森銑三刈谷の会
例会　第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館　参加自由　共同代表 神谷磨利子・鈴木　哲 tetsu_s@katch.ne.jp

38:20024/12/21(土) 鈴木哲「森銑三の西鶴『一代男』一作説と暉峻(てるおか)康隆(1905-2001)」参加13人

暉峻 vs. 森『毎日新聞』紙上論争(1978/9/14:5, 10/5:5)

鈴木哲

中日(1985/3/8[朝]:23)「西鶴研究の森銑三氏死去」などが「(西鶴研究で)ユニークな新説を発表したがアカデミズムからは黙殺された」とした。井原西鶴『好色一代男』森・暉峻論争を新聞データベースと両者著作で探索した。例会38で下記18編を紹介した。

森(1958/11)『井原西鶴』吉川弘文社, pp. 294, 301-04
丸山季夫「森氏の西鶴伝」森『井原西鶴』附録11
森(1978/1)『一代男新考』冨山房, p. 294後記
稲葉(1978/2/3) 森(1978/1)『一代男新考』添え書き
毎日(1978/2/27[朝]:7)「森銑三『一代男新考』」
中野好夫(1978/8/30[夕]:7)「よしのずいから」『毎日』
暉峻(1978/9/14[夕]:5)「すもん事件と西鶴」『毎日』
森(1978/10/5[夕]:5)「『一代男』だけが傑作―」『毎日』
森(1979/11)「三国[一朗]氏との対談」雑誌『北葉』
〈森(1995)『森銑三著作集』続編15所収〉
森(1980/7)「西鶴への執着」雑誌『北葉』〈同上〉
読売(1985/3/8[朝])「国文学者・暉峻隆康さんの話」
江本裕(1988)「森銑三先生の西鶴研究」『森銑三著作集』愛蔵版月報2
中村幸彦(1993/4)「新小説の誕生」『著作集』続月報4
森田誠吾(1998)『明治人ものがたり』p. 107
朝日(2001/4/19[朝]:39)「西鶴研究―暉峻康隆氏死去」
朝日(2001/6/4[夕]:5)「国文学者　暉峻康隆さん」
毎日(2002/8/9[夕]:6)山本音也『ひとは化けもん―』
山本(2005)『ひとは化けもん―』文春文庫, p. 267

森・暉峻論争契機は中野（1978/8/30[夕]:7；『一代男新考』）である。舌鋒は厳しい。読売(1985/3/8[朝])森訃報記事で暉峻は「西鶴研究では私と見解の違う部分もありましたが」「尊敬していた」と森を評価する。

『ブリタニカ国際百科事典』(1972-75)「大田南畝」は森、「上田秋成」「狂歌」は中村幸彦(1911-98)(33「森銑三の百科項目『大田南畝』」)で、「井原西鶴」は野間光辰(1909-87)である。野間『西鶴年譜考証』中央公論社、野間・中村（1949-1970)『定本西鶴全集』全15巻、同がある。二人はともに『森銑三著作集』編者を務めている。

森銑三の西鶴『一代男』研究への姿勢に思う

神谷磨利子

毎日新聞1978年2月～10月の、森銑三が自著『一代男新考』を語る記事に始まる、中野好夫・暉峻康隆の論争、暉峻への銑三の反駁という生の新聞記事の比較は面白かった。しかし新聞の見出しの文言の不気味さをも感じた。江本裕「森先生の西鶴研究」は、銑三の「西鶴『一代男』一作説」に至る研究の過程と他の研究者たちの動向が分かり、学ぶところの多い資料であった。

「西鶴は、純粋な芸術的感興の盛り上がつて来るものを身に覚えて、『一代男』の一作を書いた」(「西鶴本叢考」著作集続編4, p. 240）と銑三は言うが、それは銑三の『一代男』研究に対する姿勢そのものに思える。

丸山季夫（資料：人物叢書附録）によって一筋の光が

飯田芳子

1978年8月の毎日紙上で中野好夫は森銑三の新著『一代男新考』を取り上げ、この異説に学者間で論争があってしかるべき、自身は門外漢ながら二十数年前の著述で承知していたと述べた。それが資料・1958年の丸山季夫「森氏の西鶴伝」である。丸山の論旨から新たな論考が生まれる素地を感じた。解体新書的な克明な作業を予感させた。それから30年を経て資料・1988年の江本裕は客観性を持った文体論で論争に応えようとしていた。

個人的に面白いテーマ

河橋育実

個人的に面白いテーマでした。新聞というメディアで自説のやり取りをして、お互いの考え方を読者に知ってもらい、興味のある読者には面白かったのではないかと思います。銑三さんは根拠があっての反論であれば、真摯に受け止めて意見を述べられておられるけど、そうでないものは相手にしないのかなって思いました。少数でも銑三さんに賛成の意見もあって、嬉しいです。西鶴論争は永遠の謎のままなのかなって思いました。

＜紙面都合によりご投稿文面を一部編集しました：哲＞

2025/1-2 予定

39:2025/1/18(土) 第1会議室：竹中良枝・神谷明子・神谷美恵子「森銑三『武玉川選釈』」を読む」
40:2025/2/15(土) 視聴覚室：神谷磨利子「森銑三(1895-1985)と師・井上通泰（1866-1941)」